

景気景況調査報告

(第6回)

平成29年 4～6月期 実績
平成29年 7～9月期 見通し

平成29年8月

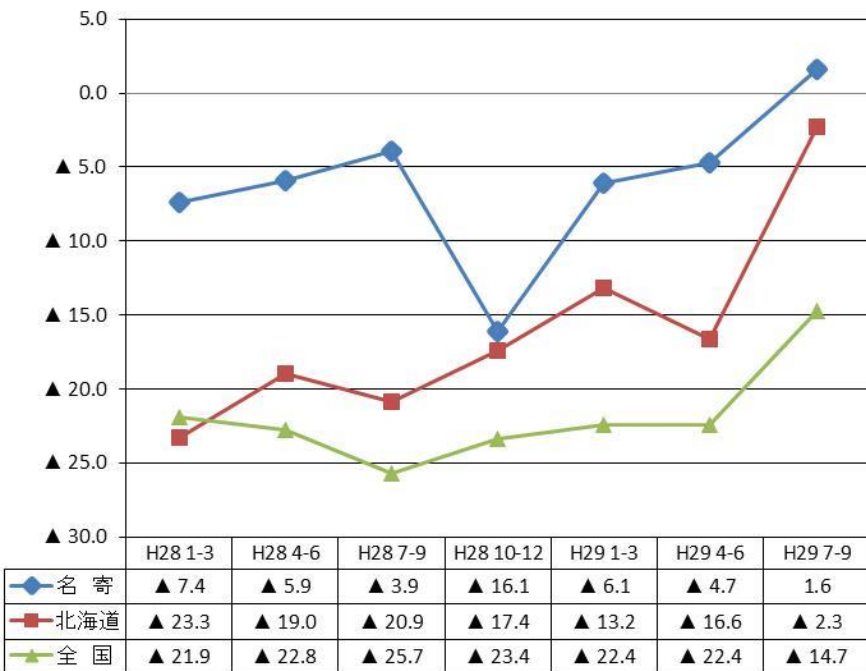
名寄商工会議所

I 調査要領

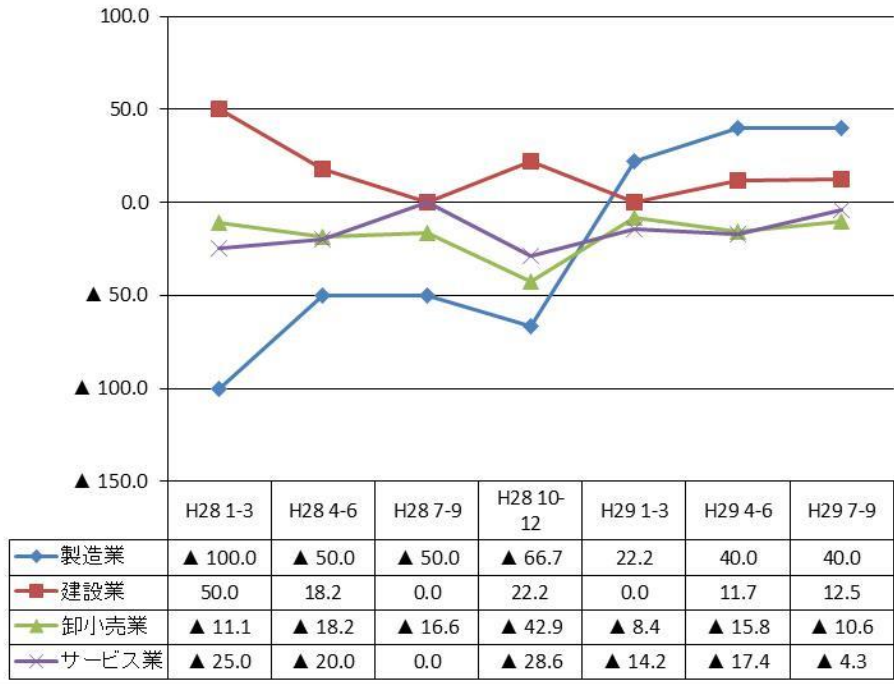
- ①調査対象期間 平成29年4～6月期の実績及び平成29年7～9月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願い）64社

II 調査結果

全業種平均業況DI



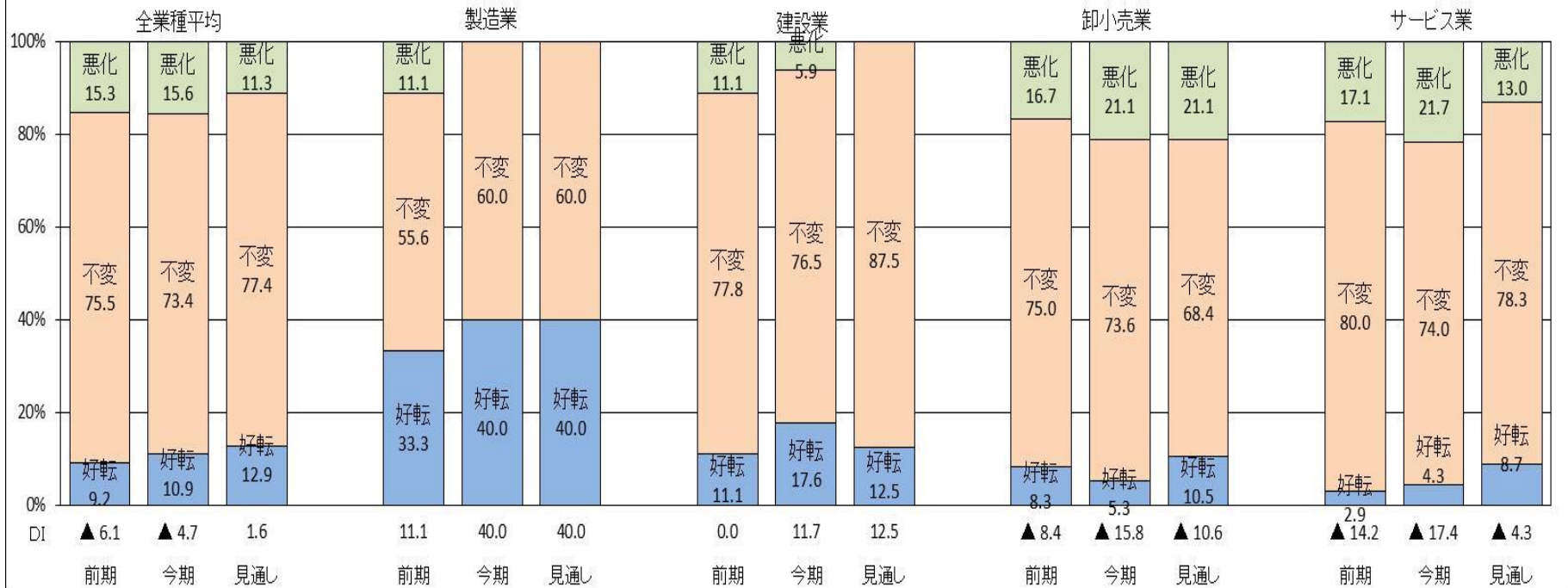
業種別業況DI



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- ・ 今期、全業種平均で▲4.7ポイントと前回の調査に比べ1.4ポイント上昇し、若干の回復傾向が見られる。見通しでは1.6ポイントと6.3ポイント拡大となった。
- ・ 北海道（道商連調査）の景気と比較すると、名寄市は上昇傾向にあり、見通しでは3.9ポイント上回る状況となった。
- ・ 全国（日商調査）の景気と比較すると、今期は17.7ポイント上回り、見通しでも16.3ポイント上回る状況となった。
- ・ 名寄、北海道、全国の見通しとも、当期より改善する見通しとなっている。
- ・ 業種別では、製造・建設業は改善されており、卸小売・サービス業は悪化している。

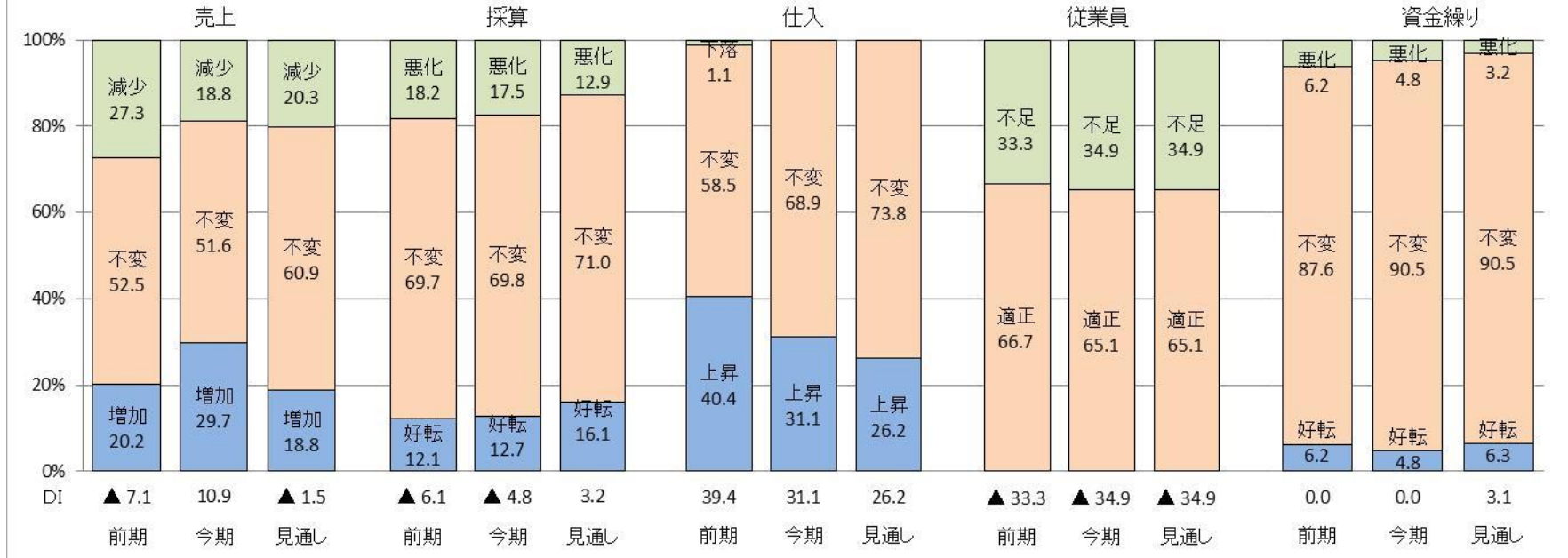
業種別業況回答割合



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- ・製造業～今期「悪化」がなくなり、見通しでも今期同様となっている。
サンルダム工事によりコンクリート等の資材受注の為上昇したとの回答。
- ・建設業～今期「悪化」5.9%と前期より5.2%減少。「悪化」では人手不足により大きな工事が受けられない。「好転」は市のリフォーム補助金制度による受注の増加によるものや、工事の最盛期に入ると回答。DIは11.7となっている
- ・卸小売業～今期「悪化」21.1%と前期より4.4%上昇し、「好転」が3%減少している。売上減少・仕入単価の上昇が「悪化」の主な要因
見通しでは「好転」が10.5%と今期より5.2%上昇見込みである。
- ・サービス業～今期「悪化」21.7%と前期より4.6%増加したものの、「好転」も1.4%増加している。見通しでは「悪化」が13%、「好転」8.7%と若干の改善が見込める。公共工事関係者による影響があると思われる。

全業種平均項目別回答割合



売上 DI

今期10.9ポイントと前期よりも18ポイント改善。見込みでは▲1.5ポイントと今期より12.4ポイント悪化見込。

[増加の要因]

- ・リフォーム補助金や市の工事受注増（建設業）
- ・経費削減、宿泊者数の増加（卸小売、サービス業）

[減少の要因]

- ・人口減少や宴会等の減少（卸小売、サービス業）
- ・工事発注の遅れ、ハウスメーカー工事増（建設業）

採算 DI

今期▲4.8ポイントと前期より1.3ポイント改善。見込みでは3.2ポイントと今期より8.0ポイント改善。

[好転の要因]

- ・リフォーム補助金や新事業への取組み、製品需要増（製造、建設業）
- ・観光客増、新規顧客の確保（サービス業）

[悪化の要因]

- ・人口減少、人手不足（卸小売業）
- ・経費の増大（サービス業）

仕入 DI

今期31.1ポイントと前期より8.3ポイント減少。見込みでは26.2ポイントと今期より4.9ポイント減少。仕入価格の上昇が止まってきている。今後は不透明である。

[上昇の要因]

- ・公共事業や民間設備投資で人員不足による人件費への価格転嫁（建設業）
- ・円安による影響（卸小売業）
- ・原料や流通コスト上昇による値上げ（建設、卸小売、サービス業）
- ・オリンピック工事関係と災害関係で品不足による価格上昇（卸小売業）

従業員 DI

今期で▲34.9ポイントと前期よりも1.6ポイント増加。見込みでも▲34.9ポイントと今期同ポイントとなり従業員不足の問題は以前として続いており、特に建設業による不足の声が多い。

[不足の要因]

- ・工事の最盛期で、受注が多くなり人員が不足（建設業）
- ・定年や高齢化による退職者の増加（全業種）
- ・学生アルバイトが帰省により不足（サービス業）
- ・能力不足や社員が定着しない（卸小売、サービス業）
- ・人口減少、高齢化に伴う労働人数自体の不足（卸小売、サービス業）

資金繰り DI

今期で0.0ポイントと前期から変動なし。見込みで3.1ポイントとなるがほぼ横ばいとなっている。